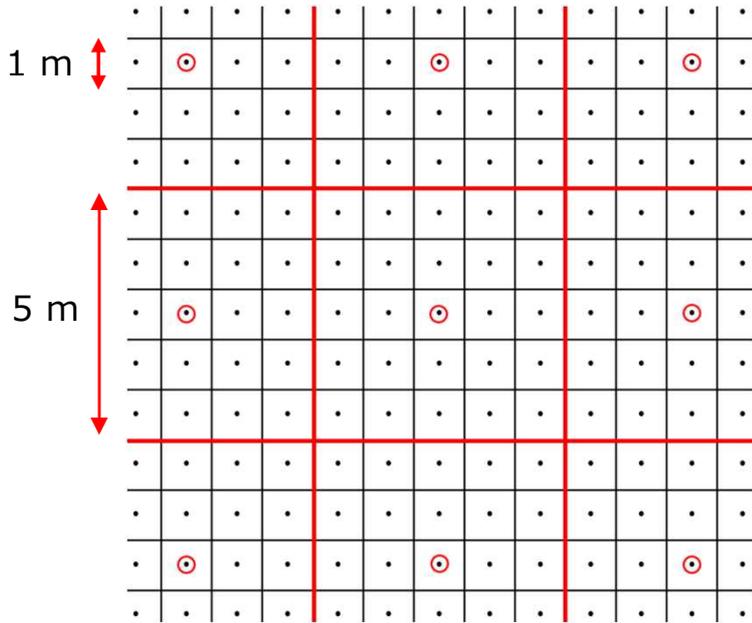


基盤地図情報（数値標高モデル）について

1mメッシュ（標高）と5mメッシュ（標高）の違い

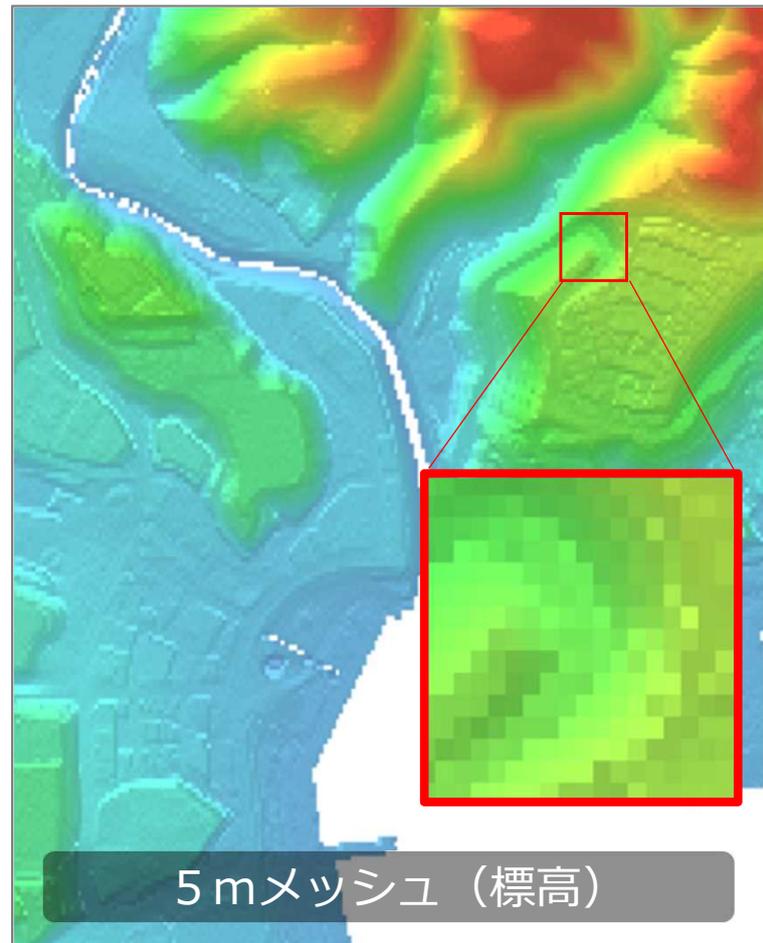
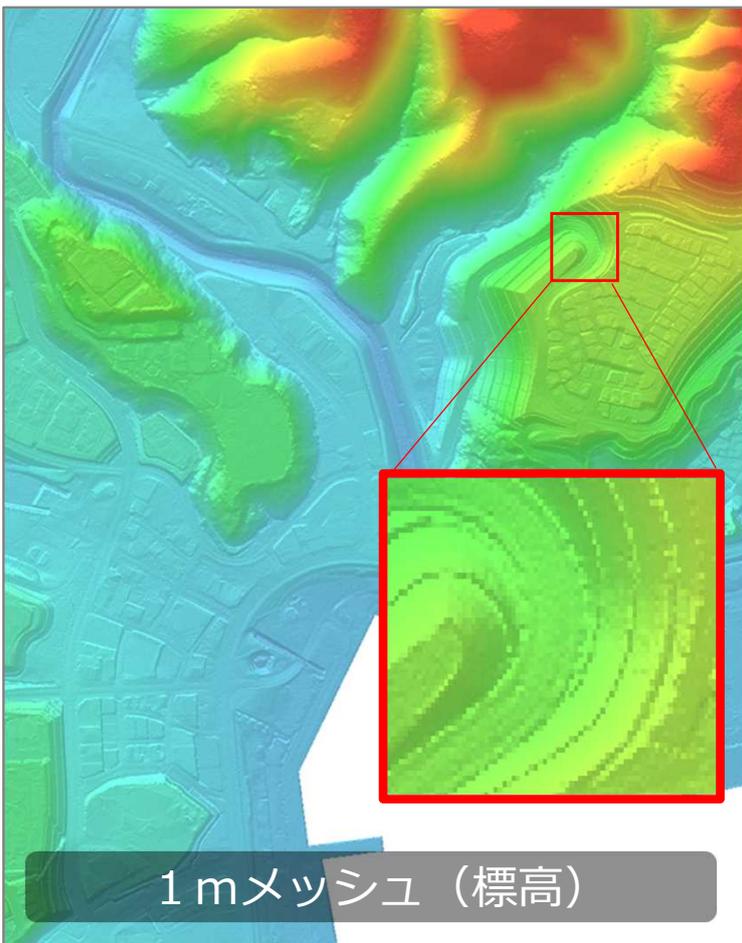
1mメッシュ（標高）は、5mメッシュ（標高）に比べて25倍の標高点の密度を持ち、より詳細な地形の表現が可能となります。

◆ 標高点密度の違い（イメージ）



- 凡例
- ・ 1mメッシュの標高点
 - 5mメッシュの標高点

◆ 陰影段彩表示での見え方の違い



基盤地図情報（数値標高モデル）について

数値標高モデルの活用事例

数値標高モデルは、洪水、津波などの浸水被害の予測や土砂災害の危険性の調査、まちづくりなど、さまざまな分野で活用されています。

活用事例 1) ハザードマップにおける洪水浸水想定区域や災害時の浸水推定図※¹の作成などに利用されています。

※ 1 国土地理院が収集した画像等と標高データを用いて、浸水範囲における水深を算出して深さを濃淡で表現した地図



活用事例 2) 令和 3 年 7 月に静岡県熱海市で発生した土石流では、盛土前・盛土後・発災後のデータを比較することで、標高変化を定量的に示しました（盛土の前後及び土石流発生後の変化量を図面やグラフで示しています）。

